

ザックの始末

一泊登山だからザックが日帰り登山より少し大きい。

1 日目の足慣らしのハイキングを終え、ホテルに戻って来た。参加者 25 人、スタッフ 5 人、総勢 30 人。登山パーティとしては人数が多い。エレベーターホールはザックを背にした登山者でいっぱい。エレベーターが降りてきて、ドアが開く。雪崩をうつように登山者が乗り込んでいく。同じパーティの仲間だからトラブルはないが、ギクシャクしている。ギクシャクの原因は背中の中のザックにある。

皆さん、ザックを背負ったままエレベーターに乗り込んでいくので、ザックが余計な空間を占領してしまう。乗り込んでいる頭数はそれほどではないので、後続の人からはもっと乗れそうに見えるのだが、ザックで空間を占領されている箱の中では、すでに身動きがとれない状況になっている。問題解決は簡単、ザックを背中から外せばいい。

とは言っても、身動き取れなくなってからザックを外すのは苦しい作業だ。エレベーターホールに立って待っているとき、ザックを背負ったままでなく、背中から外して足元に降ろしておくのがエレベーターをスムーズに乗降するポイントだ。実に簡単なことだが、なかなかできない小さな気配りなのである。

ザックを背負ったり、降ろしたりする際も周囲への配慮をお願いしたい。ザックを背負ったり降ろしたりという動作は、極端な言い方をするとザックを振り回すようなもの。後ろ脇に立っているような人に気付かず、振り回されたザックがその人に当たるというトラブルがときとしてある。

行動中にすれ違ったりする場合、山側に避けて、道を空ける。このとき、胸が山側に向いている方が時々いる。背中がすれ違う人の側に向いているので、本人は山側に避けているつもりでも、ザックが出っぱっていて通行の邪魔をしている。山側に避けたら、体の前面は谷側に向いていることだ。

山側に避けるというのは本当に重要なことで、谷側に避けて立っていて、すれ違う人にぶつкаられると、慣性の法則で止まっている方の方がはじき飛ばされる。

こんな、誰もが知っているようなことをもっともらしく書いたのは、昨今、登山のルールやモラルについて認識が希薄になっているような気がしてならないからである。登山者は増加しているようには思えるのだが、登山のイ・ロ・ハを学んでいる人が少ないように思える。

山では、「登り優先」。これはルールではないが、登山者相互の思いやりの発露として常識と言っていると思うのだが、それと知らないのかこちらが息きらせて登って行っているのに構いなく、避けるそぶりもみせずガンガン下ってくるパーティに遭遇することが増えている。

ここしばらくは、小言こうべえになるとするか……。